

思い出胸に新たな一歩

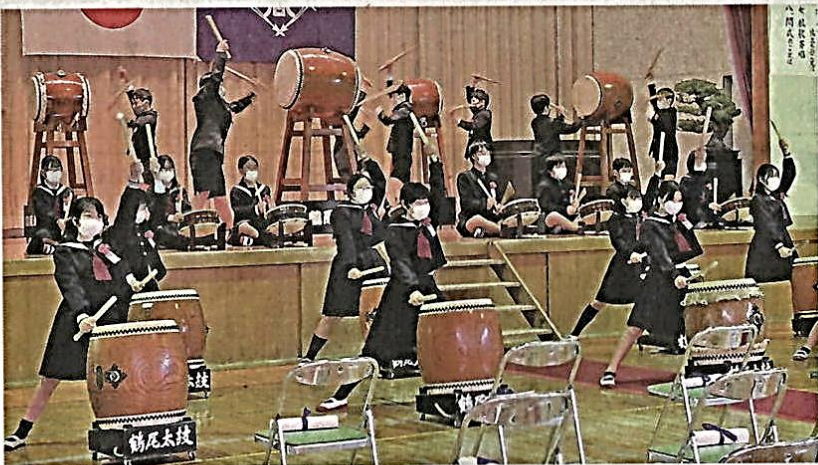
県内の多くの公立小学校で16日、卒業式が開かれた。卒業生は恩師や友達との別れを惜しみながら6年間の思い出が詰まった学びやを巣立ち、新たな一歩を踏み出した。

演奏も披露し、力強い音色を体育館いっぱい響かせた。

湯浅萬尋さん(12)は「6年間一緒に過ごした仲間との別れは寂しいが、中学校では勉強や部活を頑張る、友達をたくさんつくって一日一日を楽しみたい」と笑顔で話していた。

県教委によると、本年度に卒業式を行う公立小学校150校のうち、この日は5市2町の87校で式を実施。18日までに全ての小学校で順次開かれる。

伝統の音色 力強く



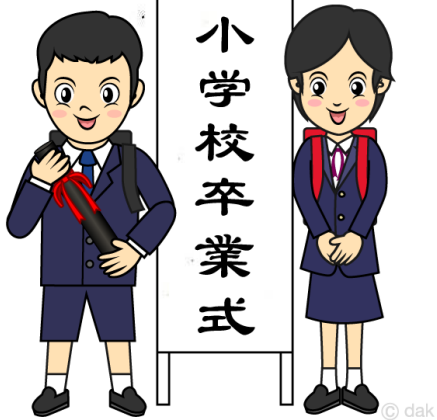
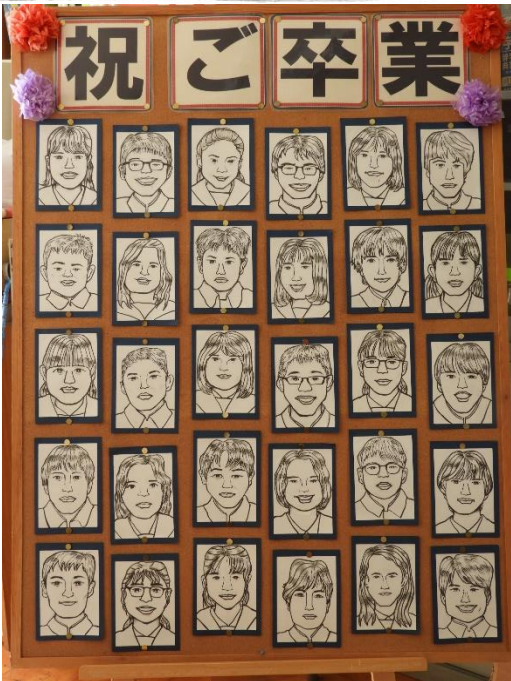
伝統の「鶴尾太鼓」の演奏を披露する卒業生＝高松市松並町、鶴尾小

鶴尾小卒業生が「鶴尾太鼓」

高松市松並町の鶴尾小(田中義人校長)では30人が卒業。新型コロナウイルス感染症対策として座席の間隔を空け、常に換気を行いながら式を実施した。在校生の出席は5年生だけに限定し、1〜4年生は各教室からオンライン中継で式室からオンライン中継で式

の様子を見守った。式では、田中校長が一人一人に卒業証書を手渡し、「学びやで身に付けた自分もほかの人も幸せにする人権の心を翼にして、夢に向かって大きく羽ばたいて」とはなむけの言葉を贈った。卒業生は全員で言葉を

四国新聞 2022年3月17日付



第一一五回 鶴尾小卒業式

3月16日(水)